

税制調査会（第26回総会）終了後の記者会見議事録

日 時：平成27年10月30日（金）16時24分～

場 所：中央合同庁舎第4号館11F－共用第一特別会議室（1113号室）

○記者

本日、非公開で行われました議論の概要、また今後の運びについて、会長の方からお願いします。

○中里会長

少し詳しく今日何が行われたかについて、説明します。

いわゆる起草会合ということで、言いたいことを言っていただくということで、非公開とさせていただきますことを御了解ください。

非公開の形ではありますが、個人所得課税や資産課税に関する論点の整理をどのように行うか。個別税目を検討するに当たって前提となる経済社会の構造変化の実像についてどのように整理するか。この二つについて議論を行いました。

その中で、まず第一番目に経済社会の構造変化についてですが、幾つかの意見が出てきましたが、例えば家族、社会、公的セーフティネット機能が低下し、誰もが貧困に陥るリスクを抱えているという指摘。若者の不本意ながらの非正規雇用などの問題はヒューマンキャピタル、人的資産の形成を阻害し、経済の潜在成長力の下押し圧力になるのではないかとといった意見。そのような点に対応するために、例えば結婚したい人は結婚し、子供を産み育てられる生活基盤を確保することが重要ではないか。自らのライフスタイルやニーズに応じて働いて、どのような働き方であっても、その努力した分が報われるようにすることが重要ではないか。あるいは再分配機能を回復して、公的セーフティネットを再構築することが重要ではないかといった、いわば成長基盤と生活基盤をともに再構築するという視点。この重要性が指摘されたのではないかと思います。以上が経済社会の構造変化についての議論です。

二番目に個人所得課税については、例えば結婚して、子供を産み育てようとする若年層、低所得層に配慮するための所得控除制度の見直しの点。働き方の多様化や家族のセーフティネット機能の低下を踏まえた人的控除の役割。老後の生活に備えるための自助努力に対する支援のあり方。そのようなコンセプトで議論を整理していったらどうかという意見が多く出されました。

さらに資産課税については、相続税の有する資産再分配機能の適切な確保あるいは贈与税における格差の固定化防止と、円滑な生前贈与の両立。資産や遺産の一部を社会に還元することによる機会の平等の確保。このようなコンセプトで議論を整理していったらどうかという意見が多く出されました。

次回も本日の議論に引き続き起草会合の2回目を本日と同じように非公開という形式で開催し、論点整理の取りまとめに向けた議論を進めていきたいと考えています。

○記者

相続税のところで円滑な生前贈与などという話もあったということですが、この税制調査会での議論は、基本的には所得税が中心で行っていたと思うのですが、今のお話を聞くと、資産課税の方に議論でのウエートが急に高まっているような印象も受けるのですが、その辺りの整理はどのようになっているのでしょうか。

○中里会長

必ずしもそうではなくて、割いた時間の問題からいって、個人所得課税が重点の中心であることは税収の規模からいっても、多くの国民に対するインパクトの点からいっても、これは当然の前提であるということです。ただし、所得というフローの問題を扱うと、どうしても相続税、贈与税等のストックの問題も当然関連してきますから、最後に個人所得課税の議論の後に資産課税の問題も入れたということです。今日は中間的な取りまとめで、その両方を扱うため、この二つが同じように並んでと私が説明したということです。

○記者

もう一点、経済社会の構造変化のところで、成長基盤と生活基盤を再構築する姿勢をと、これは一応そのようなことで大体議論、方向性は一致したということなのか。

○中里会長

そうです。単純に生活基盤だけ、要するに貧しい人に配って、生活基盤が何とかなれば良いということではなくて、そのことを通じて経済成長を促進すると言いますか、そのような攻めの姿勢がやはり重要であると思います。明るい展望の下に税制を変えていこうという気持ちがやはり重要であると思いますから、若い子育て世代に光を当てる、苦しいからその方々に手を差し伸べる。しかし、そのことを通じて頑張っていただけで成長を図っていただくという、この両方がどうしても重要になってくるのではないのでしょうか。

○記者

今日が1回目の起草会合、次が2回目の起草会合ということですが、3回目以降はどのような形でいつぐらいまでに中間取りまとめと言いますか、起草会合以降はどのような形で計画されているのでしょうか。

○中里会長

今日はあくまで起草会合の1回目であって、次回行っていくということを先ほど申し上げたわけですが、今日、実はかなり煮詰まりまして、その上で様々な方から様々な意見をお聞きしたということがあったのですが、皆様からいただいた意見を取り入れて、さらに取りまとめの中に組み込んでいくことを次回行って、その会合次第です。うまくすると次回である程度まとめられるかもしれませんが、それは少し難しいかもしれません。しかし、それほど遠い先ではなく、それなりの取りまとめにしたいと考

えています。順調に進んでいます。

○記者

次回に取りまとめを発表する可能性もあるということですか。

○中里会長

そこまではなかなか難しいです。次回議論して、また様々意見を取り入れて直さなくてはいけないことが出てきますから、それは当然必要であるということです。起草会合という形ではどうでしょう。しかし、かなり順調に進んでいますから、起草会合という形のものが次回ですむかすまないか、あくまでも行ってみてです。その点については次回また、記者会見で包み隠さず連絡しますから、どうぞ心配しないでください。

○記者

今回と次回、非公開ということですが、これまでも委員の方々は自由に議論していたという印象もあったのですが、非公開にされている理由をもう少し分かりやすく教えてください。

○中里会長

プレスの皆様がいらっしゃるとよそ行きの議論と言いますか、そのようになる場合もありえますから、よりフランクに議論いただくためです。起草会合で議論したことはまとめられ、その形で皆様にお伝えすることはできるわけですから、その過程の様々な、言いたいことが飛び交うため、それについてそのまま皆様に御覧いただかなくても、特に迷惑はおかけしないと思っています。なかなかするどい議論が飛び交いますから、聞いていると興味深いですが。

○記者

ありがとうございました。

○中里会長

どうもありがとうございました。

お世話になりました。

[閉会]